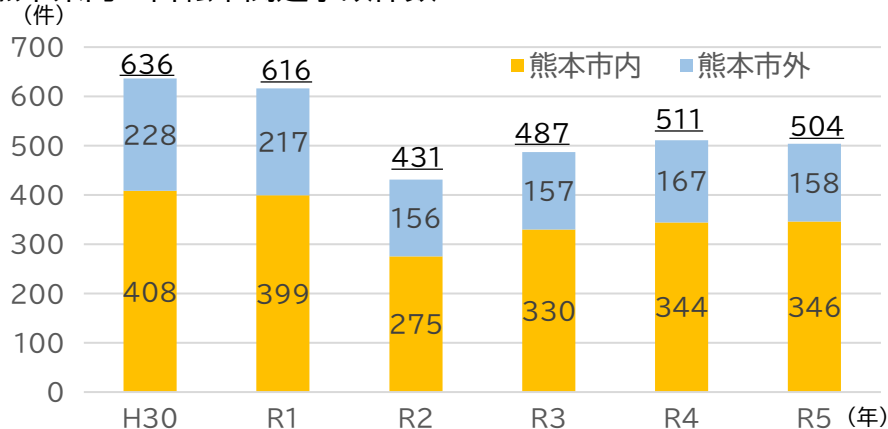


1 自転車関連事故の推移

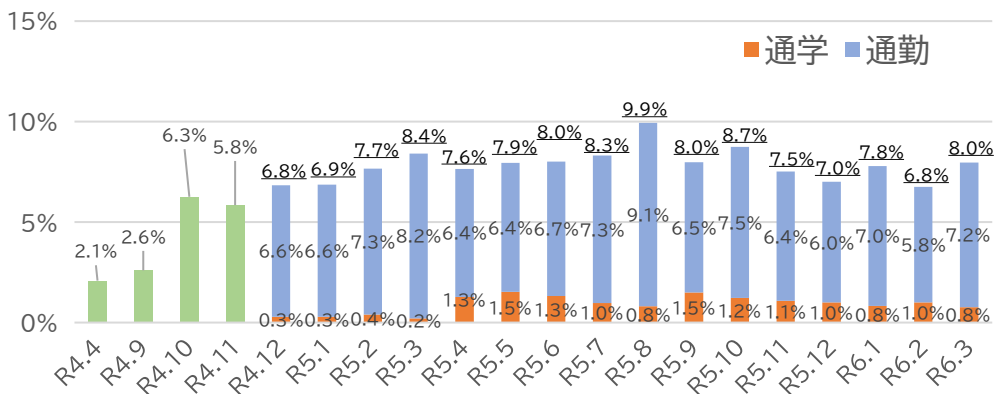
■熊本県内の自転車関連事故件数



熊本市内での事故件数は、県内の約7割を占める。
熊本市内での自転車関連事故件数は、R2から増加傾向。

2 自転車ヘルメットの着用率推移

当課で毎月実施している自転車交通量調査で、合わせてヘルメット着用率も調査(主要5路線で7時～9時までの中心部方向の自転車交通量)



R4.10の熊本市条例改正以降、着用率は6～9%で推移している。

3 令和5年度の取組

各高校や企業に、熊本市からモニター用ヘルメットを提供し、各所で独自にヘルメット着用推進に取り組んでいる。

■自転車安全利用モデル校 (5校)

・R5は、真和高校・熊本西高校・必由館高校・千原台高校・熊本工業高校を認定。



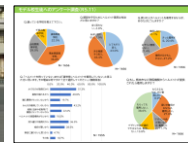
ヘルメットモニターへの説明



ヘルメットの展示・試着



校門での啓発活動



アンケート調査



交通標語募集
(交通情報板に表示)

令和6年度も、新たに5校程度の募集を行う。

■熊本市議会「高校生議会」

・令和6年1月20日(土)に開催

・熊本魅力推進生徒会から高校生21名が出席

(必由館・千原台・九州学院・熊本農業・熊本西・熊本北・鎮西高校の1～2年生)

・委員会では、「高校生における都市交通」をテーマに議論を行い、自転車のヘルメット着用について、条例等で努力義務となっているものを、完全義務化に移行するよう行政側に提案があった。

■自転車通勤推進事業所 (6社)

・R5は、アイシン九州、SYSKEN、竜之介病院・九州動物学院、NPOらぷらんど、お菓子の香梅、KMバイオロジクスを認定。



南署管内3社の合同認定式



KMバイオロジクスの認定式



九州動物学院での講演会

・KMバイオロジクスは自転車通勤での着用義務化、九州動物学院は講演会の開催、SYSKENではヘルメット購入補助など、各社独自の取組を実施中。

令和6年度も、新たに5事業者程度の募集を行う。

1 啓発用品の制作について

- ・第1回協議会(R5.8)で提案いただいた、安全利用やヘルメット着用の啓発強化に向けて、年代別の冊子及びチラシを作成した。
- ・制作にあたっては、県警本部や県市教育委員会に協力いただきながら、年代に合った表現やレイアウト等を工夫した。

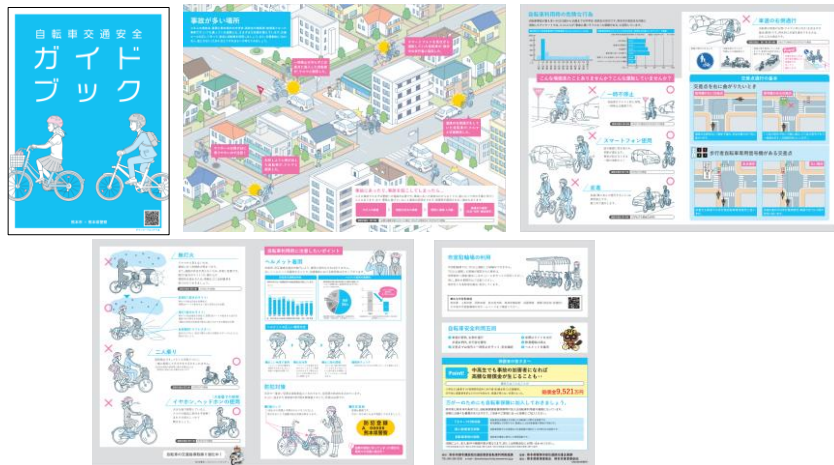
小学生版冊子

- ・クイズ形式にして、興味を引くように工夫。
- ・最低限守ってほしい「左側通行」「一時停止」を強調して内容を構成。
- ・見開き地図に、過去の身近な事故事例を掲載。



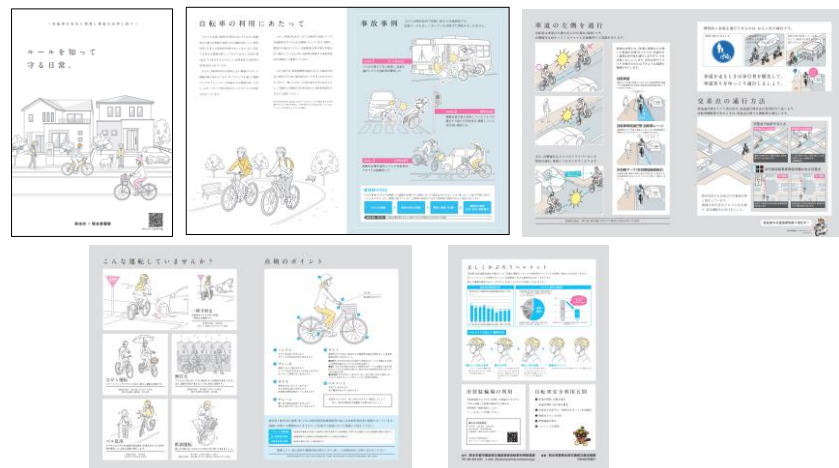
中学生・高校生版冊子

- ・小学生版とは異なり、イラストは中高生にして、身近に感じるよう工夫。
- ・中高生にありがちな「一時不停止」「スマホ使用」「イヤホン」など事項を記載。
- ・見開き地図に、過去の身近な事故事例を掲載。



一般版冊子

- ・大人向けの交通安全冊子として、全体をモノトーン調にするなどデザインを工夫。
- ・日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)の4種類を作成。



2 今後の展開

- ・熊本市ホームページ等で、PDFデータをアップする予定。
- ・小学生版と中学生版のチラシは、熊本市内の全児童・生徒に配布予定。
- ・冊子は、教育委員会を通じて各学校に紹介し、交通安全の授業等で活用してもらう。(冊子はタブレットやPCで読むことを想定)



チラシは、各冊子の内容からさらにポイントを抽出した。